

## 令和4年度 第1回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和4年9月13日（火）午後2時から午後4時まで  
2 会 場 都庁第二本庁舎 31階特別会議室 27 及びオンライン開催  
3 出席者 藤井委員（会長）、小寺委員（副会長）、佐々木委員、増淵委員、後藤委員、  
加藤委員、丹治委員、並木委員、野村委員、村上委員  
吉村委員、中嶋委員

### 4 議事内容

「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質向上に関する指標」の改定について

#### (1) 「校長に求められる資質能力の明確化」について

- 校長については、人材育成、外部折衝等、課題に対応して細かく示してもよいのではないかと。
- アセスメント能力、ファシリテーション能力ということだが、校長は多様性、価値観が違うものを調整するといったところから、新しい価値観を生み出す力を発揮するといった思いで学校を活性化させていってほしい。
- 校長のリーダーシップにより経営がうまくいっている学校では、校長が教員の心をよく把握していてまとまっている。組織として良い土壌ができていれば、教員が力を発揮することができる。校長のリーダーシップは、教員がいてこそ発揮できるものであり、教員不在になってしまってはならないと考える。
- 校長は組織的運営と個別に対応しなければならないことがあるが、躊躇してしまうことがあるのではないかと。校長に自信をもたせることが大事である。また、アセスメント能力、ファシリテーション能力はどのように活用させるのか、場面を想定して示していくことがよいのではないかと。

#### (2) 「教師に求められる資質能力の構造化」について

- 5つの柱の捉えについて、再構築が必要ではないかと。資質・能力であるとともに、対応しなくてはならない課題でもある。
- 指標は必要な観点が示されていると思う。責任感、使命感、人権意識等、教員の個人差が大きいのが現実である。指標の実現のために研修は必要なのではないかと。
- 5つの柱は全て大切である。素養も大切であるが、全ての教員がそれら全てを身に付けることは、現実的には難しいのではないかと。教員個人としてということもあるが、学校組織として機能しているかを考えるとよいのではないかと。
- 5つの柱のレベル感は異なる。教職に必要な素養は漠然とした感じがするが、ICTや特別支援教育については明確である。素養について、具体的にイメージすることで理解することが大切ではないかと。